

ちやすりやまこふん 2. 茶すり山古墳

指定日

平成16年2月27日

種別

国指定史跡

年代

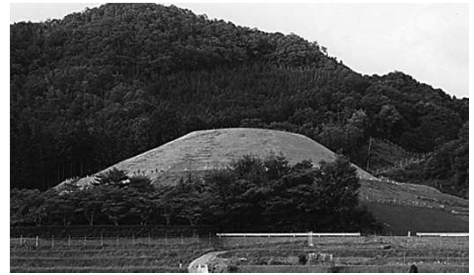
古墳時代中期

所在地

朝来市和田山町筒江字梨ヶ谷・梶原

所有者

国土交通省・朝来市



内容

和田山から山東へ抜ける「宝珠峠」の途中、標高約144mの尾根の先端に位置する5世紀前半の大型円墳。

直径約90m、高さ約18m、2段に築成されていた。本遺跡は、円墳としては近畿最大規模を誇る。

墳頂には東西約36m、南北約30mの平坦面がある。そのやや内側や段築平坦面には、円筒埴輪や朝顔形埴輪が並べられていた。

斜面には葺石がみられるが、多くは流出している。また、墳頂部には、大型の第1主体部と、これより小さい第2主体部が並んでいる。

調査の結果、墳丘の規模や中心主体の内容がほぼ判明した。出土した大量の鉄製武器・武具のなかでも、襟付短甲や柄付ちょうななど、畿内の有力者でも限られた大有力者しかもち得なかった財が副葬されていることは特筆に値する。とくに、襟付短甲は畿内以外では、茶すり山古墳以外に出土例がなく、被葬者の権力の大きさを物語っている。中央政権(ヤマト政権)と強く結びついた首長の墓であることは確実である。